The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	目で見るWHO　第55号　表紙・目次・資料等
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見るWHO. 2014, 55, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/86691
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

目で見るWHO

特集「VECTOR-BORN DISEASES」

VECTOR-BORN DISEASES：Small bite, big threat

「節足動物が媒介する感染症から身を守ろう」

—第55号—

2014秋号

発行 公益社団法人 日本WHO協会

日本WHO協会とは

公益社団法人日本WHO協会は、世界保健機関（WHO）憲章の精神を普及徹底し、その目的達成に協力し、我が国及び海外諸国の人々の健康増進に寄与することを目的として設立された団体です。設立より半世紀近く、関西を拠点にグローバルな視野から国内外の人々の健康を考え、行動しており、今後も積極的に目的達成のため活動していきます。

(1) WHO憲章精神を普及するための健康に関するセミナー等の開催及び機関誌・広報等の啓発事業
(2) 健康に関する調査研究の受託・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業
(3) 国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業
(4) WHOの事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業
(5) 国内外の健康の向上につながる人材の育成・援助等の人材開発事業

CONTENT

ごあいさつ …… 1

沿革 …… 2

●WHO Collaborating Centre

国際社会における多職種連携教育に対する要請と取組

- WHO Collaborating Centreとしての群馬大学の活動 -

……渡邊 秀臣… 3

●日本WHO協会 フォーラム開催報告

「節足動物が媒介する感染症から身を守ろう」

「世界保健デー・テーマの意義に」……関　淳一… 7

●日本WHO協会フォーラム講演録

地球規模マラリア根絶への挑戦 ……金子　明…10

「海外帰国者の感染症罹患の現状」 ……後藤 哲志…14

●2014年度世界保健デーのテーマ「節足動物媒介感染症」

「害虫（感染症を媒介する節足動物）から

効果的に身を守る手段とは?」 ……杉岡 弘基…21

フォーラム開催のお知らせ ……25

ごあいさつ

公益社団法人 日本WHO協会
理事長 関　淳一

小生、去る6月13日に開催されました、社員総会・理事会において選任され、引き続き当協会の理事長に就任いたしました。今後とも変わらぬ御指導と御協力を何卒よろしくお願いいたします。

今年の夏は日本列島では7月に入り連日、猛暑日が続き同時に、局所的な集中豪雨があり、各地で被害がでております。各地の最高気温、雨量などでは、観測が始って以来の記録が報道されています。丁度この様な中、8月27日からスイス・ジュネーブのWHO本部で3日間に亘り気候変動と健康についての専門家会議（WHO Global Conference on Climate Change and Health）が開催されます。気象や気候の変化は、人の健康に直接的、間接的に色々な影響を与えます。直接的には、様々な要素を通じて起きる生理的変化を介して、生体に影響を及ぼしますし、間接的には災害などにより人の生命をも奪います。いずれにしろ、今回の会議での議論に注目したいと思います。

去る7月5日、6日の両日群馬県前橋市において、群馬大学WHO協力センター指定記念シンポジウムと祝賀会が開催されました。これは群馬大学大学院保健学研究科が2008年以来Interprofessional Education（多職種連携教育：IPE）に取り組んでいる日本の11大学ネットワークのコーディネーター大学として取り組んできた実績により、昨年7月にWHOの協力センター（Collaborating Center：CC）に指定されたことを記念して開催されたものです。

高度専門化の進む、保健・医療の現場では、多くの職種の人達が各々国家資格の認定を受けて、仕事に携っております。その様な現場で、各職種の人達が各々自分の職種の専門性を維持し、独立しつつ、同時に他の様々な職種に対する十分な理解を持ち、良いチームワークのもと、日常の業務に取り組むことは、特に高齢社会が急速に進展する中で極めて重要であると思います。

この様な意味から、私はIPEに対して、非常に大きな期待をもっております。このシンポジウムには、私もお招きいただき出席させていただきましたが、非常に充実した二日間でした。今回、群馬大学多職種連携教育研究センター長の渡邊秀臣教授に今後の取り組み等について御寄稿いただきました。

去る6月13日に、2014年の世界保健デーのテーマ「節足動物が媒介する感染症から身を守ろう」をテーマとしたセミナーを開催し、大阪市立大学教授、カロリンスカ研究所教授 金子明先生と大阪市立総合医療センター感染症センター部長 後藤哲志先生に御講演いただきました。今回、その時の御講演の内容を文章化して頂き、掲載いたしました。御二人の先生に改めて御礼申し上げます。

又、今回、大日本除虫菊中央研究所の杉岡弘基様に節足動物媒介感染症から身を守る方法等について分かり易く解説していただきました。

非常にお忙しい中、当協会の機関誌「目で見るWHO」のためにお時間をお取りいただきました皆様に重ねてお礼申し上げます。

平成26年　夏

(公社) 日本WHO協会の沿革

1948　[「WHO憲章」が発効し、国連の専門機関として世界保健機関 (WHO) が発足する。]
1965　WHO憲章の精神普及を目的とする社団法人日本WHO協会の設立が認可された (本部京都)。会報発行、WHO講演会等の事業活動を開始。
1966　世界保健デー記念大会開催事業を開始。
1970　青少年の保健衛生意識向上のため、作文コンクール事業を開始。
1981　老年問題に関する神戸国際シンポジウムを主催。
1985　WHO健康相談室を開設、中高年向け健康体操教室を開講。
1994　海外のWHO関連研究者への研究費助成事業を開始。
1998　京都にてWHO創設50周年シンポジウム「健やかで豊かな長寿社会を目指して」を開催。
2000　WHO健康フォーラム2000をはじめ、全国各地でもフォーラム事業を展開。
2006　事務局を京都より大阪市内へ移転。
2007　財団法人エイズ予防財団 (JFAP) のエイズ対策関連事業への助成を開始。
2008　事務局を大阪商工会議所内に移転。定期健康セミナー事業を開始。
2009　「目で見るWHO」を復刊。パンデミックとなったインフルエンザに対応し、対策セミナーを開催。
2010　WHO神戸センターのクマレサン所長を招き、フォーラム「WHOと日本」を開催、WHOへの人的貢献の推進を提唱。
2011　メールマガジンの配信を開始。
2012　公益社団法人に移行。
世界禁煙デーにあたってWHO神戸センターのロス所長を招き、禁煙セミナーを開催。

第二次世界大戦の硝煙さめやらぬ1946年7月22日、世界61カ国がニューヨークに集い、すべての人々が最高の健康水準に達するためには何をすべきかを話し合い、その原則を取り決めた憲章が採択され、1948年4月7日国連の専門機関として世界保健機関WHOが発足しました。

当協会は、このWHO憲章の精神に賛同した人々により、1965年に民間のWHO支援組織として設立され、グローバルな視野から人類の健康を考え、WHO憲章精神の普及と人々の健康増進につながる諸活動を展開してまいりました。

歴代会長・理事長、副会長・副理事長（在職期間）

会長・理事長

中野種一郎(1965-73)
平沢　興(1974-75)
奥田　東(1976-88)
澤田　敏男(1989-92)
西島　安則(1993-06)
忌部　実(2006-07)
宇佐美　登(2007-09)
関　淳一(2010-　)

副会長・副理事長

松下幸之助(1965-68)
野辺地慶三(1965-68)
尾村　偉久(1965-68)
木村　廉(1965-73)
黒川　武雄(1965-73)
武見　太郎(1965-81)
千　宗室(1965-02)
清水　三郎(1974-95)
花岡　堅而(1982-83)
羽田　春免(1984-91)
佐野　晴洋(1989-95)
河野　貞男(1989-95)
村瀬　敏郎(1992-95)
加治　有恒(1996-98)
坪井　栄孝(1996-03)
堀田　進(1996-04)
奥村　百代(1996-06)
末舛　恵一(1996-04)
中野　進(1998-06)
高月　清(2002-06)
北村　李軒(2002-04)
植松　治雄(2004-06)
下村　誠(2006-08)
市橋　誠(2007)
更家　悠介(2008-　)